



サポートセンター通信 NO.39

発行日：平成24年5月15日 第39号

発行元：松本市市民活動サポートセンター
〒390-0874 松本市大手 3-8-13
松本市役所大手事務所 2階
TEL/FAX：0263-88-2988
E-mail：support-center@support-center.jp
URL：http://www.support-center.jp

未曾有の大震災から一年

市民活動サポートセンター 平成24年度 新たな取り組み

東日本大震災被災移住者への聞き取り調査報告

「私たちにできることって何だろう。」3.11以降、みなが自分自身に問いかけてきました。現地に赴き復興活動にボランティアとして参加した人、支援物資を送った人、義援金の寄付などその形は様々です。松本市内でも避難者との交流会や勉強会など、市民レベルでの草の根の支援活動が行われてきましたが、一年が経過した今もなお、復興のビジョンは見え、避難生活は長期化しています。

一方で「復興のお役に立ちたい」、「何かしたいけどどうしたらよいかわからない」という市民の思いもあります。

サポートセンターでは昨年度、その気持ちを必要な支援活動につなげていくために、一時避難を含む移住者40人の皆さんへの聞き取り調査を実施し、隣人となった被災者がどのような状況にあり、現在どのような悩みを抱えているのか、直接お話を伺いました。（聞き手はフリマネット信州代表の立石恵子さん）

皆さんが移住先として松本を選んだ理由は様々ですが、夏休み疎開プログラムの開催や、震災直後から自主避難の移住者の受入れを表明していたこと、学校給食の食材に独自の安全基準を定めて測定結果を公表していることなどがあげられ、市の対応に信頼を寄せていることがうかがえます。

5月10日現在、松本市には274の方が避難されています（消防防災課調べ）が、その4割は母子避難です。家族が離れ離れの二重生活であることから、体調を崩したり、精神的に不安定な状態であっても、経済的な負担や周囲に子どもの預け先がないこと等が理由で、医者にも行けないといったケースもありました。こどもたちの心身の健康観察面での支援とともに、こどもの健康や未来への不安を抱えながら子供を育てる母親への心の支援も重要です。生活面全般に関するカウンセリングや、子どもの預かりを求める声も多数ありました。

事態が長期化する中で、経済的な不安の訴えや支援を求める声も多く、安定した生活を取り戻すためには、移住地での就労支援と情報提供についての情報集約や、継続的な相談窓口の要望もあり、また、心の支えとして被災者同士が思いを語り合える交流の場も必要とされています。

今後、避難者の皆さんからいただいた声にお応えするための事業を、市民の力の結集によって実施していけるように、活動を進めてまいります。

～福島原発事故を受けて～ 今、私たちに何ができるか

プラチナ世代支援セミナー

被災者への理解を深め、現状を知ることから今私たちにできることが見えてくるのではないかと考え、勉強会を企画しました。チェルノブイリの事故後、放射能が子どもたちに与える影響を見つめ現地を支援してきた神谷氏と福島からの避難者である森永氏による対談の後、参加者全員で「自分たちに何ができるのか」を考えるワークショップを行ないます。

日時 平成24年5月31日（木）10:00～12:00
会場 松本市市民活動サポートセンター
主催 NPO法人ライフデザインセンター
松本市市民活動サポートセンター

対談者 ・NPO法人日本チェルノブイリ連帯基金事務局長 神谷 さだ子氏

・手をつなぐ3.11 信州代表 森永 敦子氏

定員 50名（先着順）

参加費 500円

申込み 市民活動サポートセンター TEL：88-2988

託児ボランティア養成講座

避難家族の子育て支援として、交流会開催や通院への対応、お母さんのリフレッシュのための事業の実施に向けて、託児ボランティアを養成します。各種コーディネーターや、保育師、看護師、保健師といった専門家に、保育の基本やボランティアの心構え等を学びます。

<日程・内容>

- ①6月19日 被災者の現状とボランティア
- ②6月26日 こどもの心身の発達や生活リズム
- ③7月3日 幼児の事故や病気とその応急処置
- ④7月10日 障害児等とのコミュニケーション術
- 7月11日～23日 実習（保育園での現場実習）
- ⑤7月24日 手遊びや絵本の実習
- ⑥7月31日 傾聴の心得

先輩ボランティアとの交流

会場 松本市市民活動サポートセンター

時間 毎回10:00～12:00

募集 30名程度（締切 6月15日（金））

受講料 無料

申込み 市民活動サポートセンター TEL：88-2988

松本市ボランティアセンター TEL：25-7311

NPOパワーアップセミナーを開催しました

4月17日、サポートセンターに於いて同セミナーが開催され、41人の方にご参加いただきました。

特別講師として、この春認定NPOを取得した待学園スクオーラ・今人理事長の長岡秀貴氏をお招きし「NPOの資金調達・運営方法」についてご講演いただいた後、特定非営利活動促進法（NPO法）の改正に伴う「認定NPOの取得」「NPO会計・税務」について変更のポイントを、税理士法人成迫会計事務所の北川、川端両氏にご講義いただきました。



↑ セミナーの様子

◆長岡理事長の講演より◆

NPOの運営は、志があればなんとかなる。しかし、運営を継続させるためには、経営を考えなければならない！

一般にはまだ、NPOは事業収益をあげてはいけないと理解している人が多く、NPO自身も事業で収益をあげてはいけない感覚に陥ることがある。そもそもNPOのミッションは事業収益をあげにくい内容であることが多いことから、経営難に苦しみ、結果助成金や委託費に頼らざるを得ないという状況の中で、助成金獲得のためにミッションを変更するケースもあるが、「人・金が続かなければ事業は続かない」という観点を、NPOがミッションとして強く意識しなければ、無責任なサービスの提供になってしまい、社会貢献活動を行なうNPOへの信頼、理解も進まない、とする。



「3.11以降日本人の寄付に対する意識は変わりつつある。寄付の方法が分からない、「寄付が何に使われるか分からない」といった不透明感を払拭するためにも、NPOの活動をわかりやすく伝えて理解してもらい、安心して寄付を行なえる環境をNPO自身が作りだすことが大切」だとして、継続的に活動を支援してくれる会員の獲得に向けた様々な営みが紹介された。

寄付してくれる支援者に感謝するとともに、支援していることの喜びを提供するためにもNPO側の「思い」をしっかりフィードバックすることが大切で、その信頼を強固にできれば、支援者がファンドレイザーとなって寄付を集めてくれる場合もある、と長岡氏。「グッズの制作は本物志向で」、「コストをかけてもそれ以上のパフォーマンスを得ていくような取組みも必要」「企業に対してNPOと関わるメリット、効果を提示して信頼関係を構築する」など、認定NPO取得に繋がった様々なチャレンジに、参加者の皆さんは“やる気”を刺激された様子。「長岡さんに引き込まれた」「人をひきつける力がすばらしい」といった感想を多くいただいたのも納得、の長岡理事長の熱い思いが伝わる講演でした。



↑ 熱く語る長岡秀貴氏



◆成迫会計事務所の講義より◆

「認定NPOのメリットやその要件」ポイントは、認定機関が国から県に変更になり手続きや相談が身近になったこと。寄付金に関しては、所得税の税額控除が導入されたことにより、寄付者にもメリットが大きくなり、寄付しやすくなったこと。公益性の基準の審査（パブリックサポートテスト）が、寄付収入の割合（20%以上）に加えて、寄付者の人数（3,000円以上が100人以上）でも判断されるようになったことなどがあげられます。

「会計と税務」の講義では、活動計算書への移行、ボランティア役務の金額計上などの変更点について説明がりましたが、決算の時期に近い団体の方が多かったのか、講義終了後も会計処理について質問しようとする参加者の列ができていました。

参加者の受講の様子や、アンケートによりお知らせいただいたご要望を参考にして、決算期に合わせた個別会計相談会や、認定NPOの申請手続きについての勉強会の開催についても、今後の事業の開催計画策定の際に検討していきたいと思っております。（うちやま）



↑ 講師に質問する参加者たち

測ります！身近な食品の放射能

「JCF-Team めとば」の取組み

信州大学を松本市総合体育館に抜け、女鳥羽川沿いに少し走って原橋を渡ると、JCF（日本チェルノブイリ連帯基金）の事務所がある。その2階に「JCF-Team めとば」（じえー・しー・えふ ちーむ・めとば）の放射線測定室があった。室長の三輪浩先生（信州大学名誉教授）のもとに集まった信州大学院生＝自称「7人の侍」が、一般の人から持ち込まれた食品や飲料水の放射能の濃度を測定している。

H24年1月26日にチームが発足して以来、市民から持ち込まれた検体は115体。「福島のプロ類から送られたお米を子どもに食べさせてあげたいが放射線は大丈夫か？」など、身近な不安に対応する。



←
放射線測定機容器の中に試料を入れると、横のパソコンに測定データが示される。

そもそもの始まりは、JCF事務局が流通している食品や水の安全を確かめたいと1台の放射能測定機を購入したことだった。検体を測定機に入れば結果がコンピューターにグラフで示されるが、問題はこの数字の読み方。依頼者が知りたいのは、持ち込んだ物が「安全なのか」どうかということだ。それには数字を解説できる専門家が必要になる。というわけで、JCFの神谷事務局長が三輪先生に助けを求めたところ、「それなら・・・」と、三輪先生は信州大学理学部でも最も放射線に近い研究を行っている物理学部の研究室に声をかけた。すると7人の学生が名乗りをあげ、「JCF-Team めとば」（代表浜崎竜太郎さん）が発足した。

JCF-Team めとばでは持ち込まれる検体を測るばかりではなく、自分たちで汚染地域の表土や流通食品などの検体を集めて調べている。

今のところ、長野県内の検体からは危険な数値は出てきてはいないとのことだったが、目に見えない放射線だけに油断はできない。「むやみに心配して不安になる前に相談に来て下さい」とリーダーの浜崎さん。今後は、給食の食材検査や、子どもたちへの放射線の出前講座にも取り組んでみたいと考えている。放射能を理解し身近に感じることで、危険かどうかを自分で判断する力がつくと思うと話してくれた。

学生たちが加わったことで活動に活気が出たとJCF事務局のみなさんも喜んでいる。チェルノブイリ原発事故以後のベラルーシを見守り続けたJCFと未来を担う学生がチームを組んで、FUKUSIMAの先の明日に向かっていく。（なかばやし）



←
バーベキューで交流を温める学生とJCFのメンバー

【検体の持ち込み方法】

事前にJCF事務局に電話（0263-46-4218）で予約をして測定依頼書を出す。検体は電話予約の後、持ち込みか遠方からの場合は宅急便等で送付も可。

【受付対象試料】

- ①食品（自家栽培作物、流通食品）
- ②飲料水（水道水、井戸水）

【検査費用（1検体）】

- ・一般：2,000円（JCF会員 1,000円）
- ・法人：5,000円（要相談）

【問合せ】

TEL:0263-46-4218 FAX:0263-46-6229
E-mail:asama@jcf.ne.jp HP: http://jcf.ne.jp
（日本チェルノブイリ連帯基金内）

～登録団体情報の更新のお願い～

新年度にあたり、登録団体の皆様に登録団体情報の更新をお願いしています。今回、登録団体の皆様へは平成24年4月30日現在の登録情報が載った「登録情報確認書」をお送りしています。そちらをご確認頂き、団体事務所や担当者、連絡先など変更になった箇所のある場合は同封の「登録（変更・廃止）申請書」でお知らせください。FAX、郵送でも受け付けています。

イベント・募集情報をお寄せください。

サポートセンター通信やホームページで、皆さんのイベント情報や募集情報などをご紹介します。



世代間交流事業・ボランティア募集

昔あそびや、ものづくりあそび、地域の伝統食を子どもたちに伝承していくのを手伝ってくださる方を募集しています。こんな方をお待ちしています！

- ・子どもたちにお手玉、おはじきを教えた～い！
- ・子どもたちに木工や織り物を教えた～い！
- ・子どもたちにおやしき、やししょうまを教えた～い！

- ◆会 場 松本市アルプス公園内北口古民家体験施設
- ◆日 時 4月～10月の毎週土曜日 9:00～15:00
- ◆問合せ 松本わらべ館設立準備室
(赤沼) TEL: 090-8854-3935

庄内ほっと塾

①ホタルの学習会 講師に信州大学藤山静雄教授をお招きして事前学習会を行います。

- ◆日 時 6月30日(土) 14:00～16:00
- ◆会 場 庄内地区公民館 大会議室
- ◆参加費 100円程度(資料代) ※小・中学生は無料

②ホタル成虫観察会 会の専門家の話を交えながら、ヘイケボタル成虫の観察を行います。

- ◆日 時 6月30日(土)、7月7日(土)、7月14日(土)
19:30～21:00頃(雨天順延)
- ◆会 場 庄内北公園(コモ庄内綿半北裏)のホタル水路
- ◆参加費 無料

- ◆問合せ 庄内ほたると水辺の会
(上條) TEL: 090-4462-7764



映画「道～白磁の人～」

20世紀初頭の朝鮮半島で林業技師として緑化活動に尽力し、民族の壁を超えた人間愛、博愛に生きた浅川巧。彼の軌跡を描いた映画「道～白磁の人～」が公開されます。松本平の有志による「映画『白磁の人』松本制作委員会」が9年前より企画・準備を進め、念願の映画化となりました。松本シネマライツ(問合せ0263-24-0122)にて6月9日よりご鑑賞いただけます。

- 公式サイト: <http://hakujinohito.com/>
- ◆問合せ 映画『白磁の人』松本制作委員会
(副代表 李春浩 TEL: 090-1691-4485)

まつもと草の根平和集会

「核はいらない/核兵器も原発も」
スティーブン・リーパーさん(広島平和文化センター理事長)
講演&黒坂黒太郎コカリナコンサート(共演:矢口周美 うた・オートハープ)

スピーチと音楽、そして対話を通して、私たち草の根市民がいま何をすべきか、一緒に考えましょう。
12:00～会場内で「原爆展」も開催されます。

- ◆日 時 7月8日(日) 13:00～(12:00開場)
- ◆会 場 松本勤労者福祉センター大会議室
- ◆入場料 前売券¥1,500(当日券¥1,700)
- ◆問合せ 同実行委員会(望月) TEL: 53-7231
※プライベート「原爆展」Mウイングにて
6月15日～18日(最終日は16時まで)

楽団「ケ・セラ」第9回定期演奏会

知的ハンディを乗り越え音楽を通して自立を目指す若者たち「楽団ケ・セラ」第9回定期演奏会が開催されます。

- ◆日 時 6月2日(土) 13:30～(13:00開場)
- ◆会 場 レザンホール 中ホール(塩尻市大門7-4-8)
- ◆入場料 無料
- ◆プログラム 楽団ケ・セラ 《太陽シリーズ》
太陽にほえろ!、手のひらを太陽に、
太陽がくれた季節 ほか
ケ・セラII ソーラン節、夢の世界を ほか
- ◆問合せ NPO法人ケ・セラ TEL: 57-6329



もぐもぐキッズ in 松本

親子参加で絵本の読みかたりとお菓子や料理づくりを楽しむ「もぐもぐキッズ in 松本」。3年目を迎えた2012年度の第1回目は、ピザとポケットパン作りに挑戦します。

- ◆日 時 ①6月4日(月) 10:30～12:30
②6月5日(火) 10:30～12:30
- ◆会 場 ①南部公民館 なんなんひろば(調理室)
②城東公民館 ふくふくらいず(調理室)
- ◆参加費 1家族 800円
- ◆締切り 5月29日(火)
- ◆定員 20組 ※定員になり次第締切ります
- ◆問合せ もぐもぐキッズ(百瀬) TEL: 57-3317 (fax 共通)

編集後記

この春、サポートセンターも新たなスタッフを迎え、新体制でスタートしました。サポートセンター近くの松本城では、今年も見事な桜が人々の目を楽しませてくれました。満開の桜を目の前にすると、その力強い生命力に新年度を新たな気持ちで頑張っていこうと、身が引き締まる思いになります。よりパワーアップしたサポートセンターにどうぞご期待ください。(かわかみ)

新スタッフ紹介

- ・右も左もわかりませんが、一生懸命頑張ります。(協働推進担当 内山主任)
- ・戻りました。よろしくお願いいたします。(黒岩)
- ・春の桜に若葉の季節、サポセンの前の人波に観光地を感じています。よろしくお願いいたします。(中林)
- ・市民の皆様にお力添えできるよう頑張ります。(新美)
- ・懐かしい古巣でまたお世話になります。市民の皆様のお役に立てるよう頑張ります。(川上)

